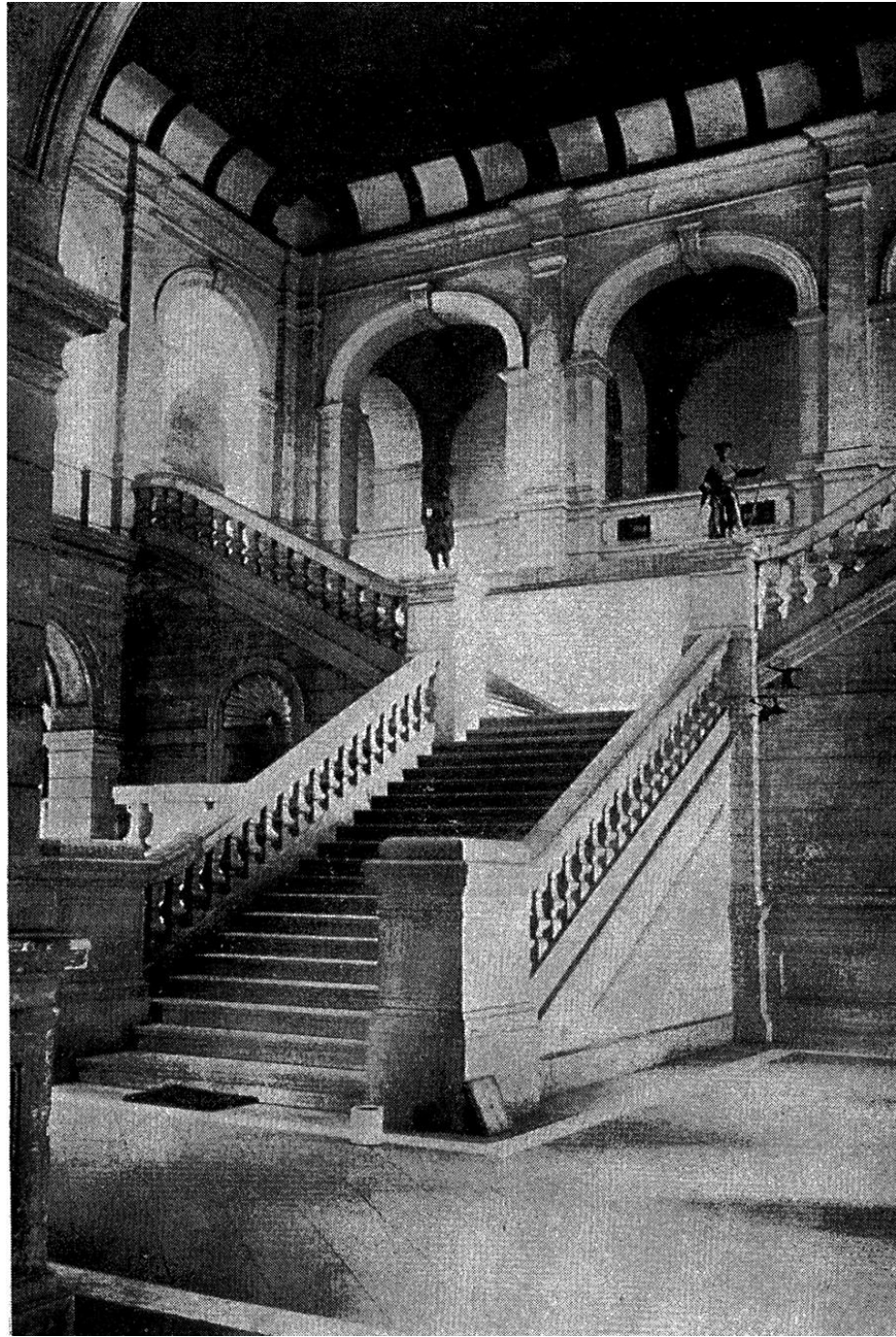


大階段の銅像 ～太田道灌と徳川家康



「東京府庁入口正面階段」『建築画報第二巻第十号』

府庁舎の玄関正面には、花崗岩、砂岩石などで作られた大階段がありました。大正9年(1920)、光が差し込む階段の踊り場の上に、江戸を開いた太田道灌(写真右)と徳川家康(写真左)の銅像が置かれました。この二体の銅像は、彫刻家・渡辺長男によってデザインされたものです。この銅像は、昭和18年(1943)、戦時中の金属供出により撤去されてしまいました。

現在、国際フォーラム内に立っている太田道灌像は、戦後に造り直された2代目で、旧丸の内都庁舎内に飾られていたものです。